

## 置かれた状況にも関わらず ～ 『役割と使命』に気づかれた人生 ～

2025 年 6 月 26 日、【千葉県柏市四季台団地の中央にある地域包括ケアシステムの要ともいえる『柏地域医療連携センター』】での『柏がん哲学外来』（代表：中野綾子氏：『がん哲学外来あびこカフェ』の代表でもある）に赴いた。今回、3 組の個人面談（4 人）の機会が与えられた。面談者も置かれた状況にも関わらず『役割と使命』に気づかれたようである。【がん細胞から学んだ生き方 ～『ほっとけ 気にするな』のがん哲学】（へるす出版）（画像）を持参されサインを依頼された。大いに感動した。大変有意義な貴重な時となった。

【がんの悩みを病院の外で心置きなく話がしたい『がん哲学外来』は、がん患者、経験者、ご家族の為の対話の場です。『がん哲学外来』を提唱された樋野興夫先生とゆっくり語り合ってみませんか？】とチラシには謳われている。今回の面談者は、『国立がんセンター東病院』で、チラシを紹介されて来られた。

『柏がん哲学外来』は、2009 年当時の『国立がんセンター東病院』の病院長の江角浩安先生のお計らいで、柏の葉キャンパス駅隣接の『国立がんセンター東病院の施設ビル』で開始し、その後、『施設ビル』がなくなり、2016 年からは、現在の『柏地域医療連携センター』に移動された。

2008 年 順天堂大学で『がん哲学外来』開設時に、【今は亡き『癌研所長：菅野晴夫(1925-2016) 先生、国立がんセンター総長の杉村隆(1926-2020) 先生、吉田富三(1903-1973) 博士の長男で、NHK のプロデューサーであった吉田直哉(1931-2008) 氏』】の御 3 人から『快挙であるとの励ましのお言葉』を頂いたことが、今回も、鮮明に思い出された。そして『陣営の外＝がん哲学外来』へと展開した。

終了後、中野綾子氏 & 東京都内の『がん哲学外来亀有メディカルカフェ』（代表：小暮信子氏）& 津原豊子氏、面談者と 6 人で昼食の時を持った。大いに話しが盛り上がった。面談者が、『がん哲学外来・カフェ』を開設される予感がする。スタッフの皆様の『心得と胆力』には、ただただ感服した。早速【3 組とも初めての参加で大変喜ばれていました。】との心温まるメールを頂いた。

# がん細胞 から学んだ 生き方

「ほっとけ 氣にするな」の  
がん哲学

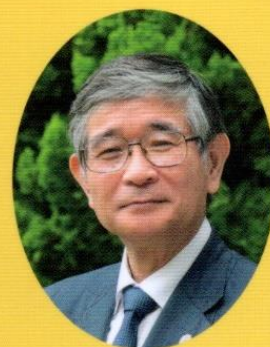
樋野興夫

順天堂大学名誉教授  
新渡戸稲造記念センター長  
恵泉女学園理事長



## がん細胞で起こることは、 人間社会でも起こる

病理医として顕微鏡でがん細胞を覗いてきた筆者が、ミクロの世界の生命現象と人間社会というマクロの世界を考える新しい領域として「がん哲学」を提唱、医療と患者の隙間を埋めるべく「がん哲学外来」を開設した。メディカルカフェも全国に展開され、患者と家族の交流の場となっている。



へるす出版